CASBEE-建築(新築)2024年版

整備工場

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**3.0**
Q1 室内環境					**0.32**		-	**3.3**
1 音環境				**3.0**	0.15	-	-	**3.0**
1.1 室内騒音レベル			―	**3.0**	0.40	-	-	
1.2 遮音				**3.0**	0.40	-	-	
	1	開口部遮音性能	―	3.0	0.53	-	-	
	2	界壁遮音性能	―	3.0	0.38	-	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	―	3.0	0.04	-	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	―	3.0	0.04	-	-	
1.3 吸音			―	**3.0**	0.20	-	-	
2 温熱環境				**3.0**	0.35	-	-	**3.0**
2.1 室温制御				**3.0**	0.50	-	-	
	1	室温	―	3.0	0.43	-	-	
	2	外皮性能	―	3.0	0.28	-	-	
	3	ゾーン別制御性	―	3.0	0.29	-	-	
2.2 湿度制御			―	**3.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式			―	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				**3.0**	0.25	-	-	**3.0**
3.1 昼光利用				**3.0**	0.30	-	-	
	1	昼光率	―	3.0	0.60	-	-	
	2	方位別開口	―	-	-	-	-	
	3	昼光利用設備	―	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				**3.0**	0.30	-	-	
	1	昼光制御	―	3.0	1.00	-	-	
3.3 照度			―	**3.0**	0.15	-	-	
3.4 照明制御			―	**3.0**	0.25	-	-	
4 空気質環境				**4.4**	0.25	-	-	**4.4**
4.1 発生源対策				**5.0**	0.50	-	-	
	1	化学汚染物質	ベンゼン等のVOCが発散しない材料を使用。F☆☆☆☆を採用。	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気				**3.0**	0.30	-	-	
	1	換気量	―	3.0	0.33	-	-	
	2	自然換気性能	―	3.0	0.33	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮	―	3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				**5.0**	0.20	-	-	
	1	CO_2の監視	―	-	-	-	-	
	2	喫煙の制御	建物内全面禁煙の実施	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				―	**0.30**	-	-	**3.2**
1 機能性				**2.7**	0.40	-	-	**2.7**
1.1 機能性・使いやすさ				**2.4**	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性	―	3.0	0.26	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	―	1.0	0.26	-	-	
	3	バリアフリー計画	―	3.0	0.48	-	-	
1.2 心理性・快適性				**3.0**	0.30	-	-	
	1	広さ感・景観	―	3.0	0.37	-	-	
	2	リフレッシュスペース	―	3.0	0.26	-	-	
	3	内装計画	―	3.0	0.37	-	-	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	―	3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保	―	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				**3.5**	0.30	-	-	**3.5**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**3.8**	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	25%増の耐震性を考慮した構造設計	4.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能	―	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**3.4**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	―	3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	―	3.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	―	3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	―	3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・排水：B硬質塩化ビニル管　冷媒管：C冷媒用銅管	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	―	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				**3.0**	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	―	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	―	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	―	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	―	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	―	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
		1	階高のゆとり	4.5m確保	5.0	0.60	-	
		2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.15	4.0	0.40	-	
	3.2 荷重のゆとり			―	3.0	0.30	-	
	3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	
		1	空調配管の更新性	―	3.0	0.20	-	
		2	給排水管の更新性	―	3.0	0.20	-	
		3	電気配線の更新性	―	3.0	0.10	-	
		4	通信配線の更新性	―	3.0	0.10	-	
		5	設備機器の更新性	―	3.0	0.20	-	
		6	バックアップスペースの確保	―	3.0	0.20	-	
Q3	室外環境(敷地内)				―	0.38	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出			―	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮			―	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			―	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			―	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性					-		-	3.1
LR1	エネルギー				―	0.40	-	-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制			外壁部は全面的に断熱材を使用	4.8	0.20	-	-	4.8
2	自然エネルギー利用(直接利用)			―	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			―	2.3	0.50	-	-	2.3
	集合住宅以外の評価				2.3	-	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
		4.1	モニタリング	―	3.0	0.44	-	-	
		4.2	運用管理体制	―	3.0	0.44	-	-	
		4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	―	-	-	-	-	
		4.4	コミッショニングの推進	―	3.0	0.11	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
		4.1	モニタリング	―	-	-	-	-	
		4.2	運用管理体制	―	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル				―	0.30	-	-	3.4
1	水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水			衛生器具は節水・省エネ機能付きのものを採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
		1	雨水利用システム導入の有無	―	3.0	0.70	-	-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無	―	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
	2.1 材料使用量の削減			―	2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			―	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			―	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			―	3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			―	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			天井の内装材無しのため設備の錯そうなし	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			サッシ・ガラス用シーリング材、塗床材など	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
		1	消火剤	―	-	-	-	-	
		2	発泡剤(断熱材等)	―	3.0	0.50	-	-	
		3	冷媒	―	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境				―	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮			外皮性能等の省エネによるGHG排出量の低下	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止			―	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			―	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
		1	雨水排水負荷低減	―	3.0	0.25	-	-	
		2	汚水処理負荷抑制	―	3.0	0.25	-	-	
		3	交通負荷抑制	―	3.0	0.25	-	-	
		4	廃棄物処理負荷抑制	―	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
		1	騒音	―	3.0	1.00	-	-	
		2	振動	―	-	-	-	-	
		3	悪臭	―	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制	―	3.0	0.70	-	-	
		2	砂塵の抑制	―	-	-	-	-	
		3	日照阻害の抑制	―	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	LED照明の採用と使用目的が明確となっている。	4.0	0.70	-	-	
		2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	―	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	–	○	○	–	–	–	–	–	–					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	–	–	–	–	○	○	–	○	–	–	–
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		–	–	–	○	–	–	–	○	○	○	○	○	–
2.4.1 空調・換気設備	1.0		–	–	–	○	–								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	–	–	–	–	–						
2.4.3 電気設備	1.0	–	–	–	–	○	–	–							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	–	○	–	–	–							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		–	–	2.0	–	1.0	–	1.0	–	–	–	–		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	–	–	–	1.0	–							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		1.0	–	–	–	–	1.0	–	–					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		2.0	1.0	–	1.0	2.0	–	–	–	–				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
4.1.4 コミッショニングの推進	1.0		○	–	–	–	○								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			–	–	–	–	–	–	–	–					
2.1 材料使用量の削減	–		–	–	–										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			–	–	–	–	–								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	3.0		○	○	○	–									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0		1.0	–	–	–	–	–	–	–	1.0	–			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		–	–	1.0	1.0	–	–							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	–		–	–						
3.2.2 砂塵の抑制	–		–	–											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能
- 窓システムSC – 窓の日射熱取得率(η) –
- U値(W/m2K) 窓システム – 屋根 – 外壁 – 床 –
- 住戸部分 窓システムU値 – 外皮UA値 – ηAC – ηAH –

3.1.1 昼光率
- 昼光率 –

4.2.2 自然換気性能
- 自然換気有効開口面積率 –

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
- 執務スペース – /人 病床 – /床 シングル – ツイン –

1.1.2 高度情報通信設備対応
- コンセント容量 – VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
- 天井高 – m

1.2.2 リフレッシュスペース
- リフレッシュスペース – レストスペース –

2.2.1 躯体材料の耐用年数
- 想定耐用年数 – 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
- 想定必要間隔 – 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
- 想定必要間隔 – 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
- 想定必要間隔 – 年

3.1.1 階高のゆとり
- 階高 4.5 m

3.1.2 空間の形状・自由さ
- 壁長さ比率 0.2

3.2 荷重のゆとり
- 床荷重 – N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出
- 外構緑化指数 – 建物緑化指数 –

3.2 敷地内温熱環境の向上
- 空地率 – 水平投影面積率 – 地表面対策面積率 – 舗装面積率 –

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制
- BPI/BPIm 0.82 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用(直接利用)
- 影響範囲の割合 – 採光を満たす教室数 – 採光を満たす住戸数 –
- 通風を満たす教室数 – 通風を満たす住戸数 –

3 設備システムの高効率化
- 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kWh

非住宅部分
- BEI/BEIm 再ｴﾈ有 0.71 無 0.71 ｵﾌｻｲﾄ再ｴﾈ有 – –

集合住宅
- 一次エネ削減率 再ｴﾈ有 無 –

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
- 雨水利用率 –

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
- 特定調達品目 再生クラッシャー:エコマーク商品 – 自治体指定の特定品目等 –

2.5 持続可能な森林から産出された木材
- 使用比率 –

3.2.1 消火剤
- オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)
- オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒
- オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善
- 見付面積比 – 隣棟間隔指標Rw –
- 地表面対策面積率 – 屋根面対策面積率 – 外壁面対策面積率 –
- 見付面積Sb – 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws – m 基準高さHb – m
- 緑地 – 水面 – 保水性対策面 – 高反射対策面 – 再帰性反射対策面 –